

## ＜基本情報＞

所在地：霧島市

年齢：25歳（H28.4就農）

## ＜経営概要＞

品目：露地野菜、水稻

面積：露地野菜（バジル、ブロッコリー、みずななど）50a、水稻 50a



バジル

## ＜就農のきっかけ＞

小学生の時にプランターで野菜を育てる授業があり、日々成長する野菜を見て栽培の楽しさを体感するとともに、その野菜を食べた両親から美味しいと褒められたことから、農業への憧れと就農意欲が芽生えた。その後、中・高生になってもその気持ちは変わらず、県立農業大学校へ進学し、平成28年4月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## ＜就農時＞

- ・農業をしていた祖父が病気でリタイアしたため、平成28年に祖父から農地や機械を譲り受けて就農。
- ・経営開始後、借地による経営面積の拡大とともに、新規就農者助成金を活用し中古機械を購入。
- ・販路に困ったことから、霧島市と連携して若手農家組織による販売等を開始した。
- ・食育の一環として近くの小学生を対象に、毎年、野菜の収穫体験を実施している。

## ＜現在＞

- ・就農後は様々な野菜にチャレンジしたが、現在は比較的収益性の高い葉物野菜をメインに栽培している。
- ・不足する技術や経営力を向上させるため4Hクラブに加入し、先輩農業者達とのネットワークを活用して日々研鑽中である。



バジルのほ場

## ② これまで苦労した点

- ・土づくりをおろそかにしたことから生育障害が発生し、土づくりの大切さを痛感した。
- ・販売先を見つけることに苦労した。
- ・農業大学校は設備も整っており充実した勉強もできるが、学校での農業実習と実際の営農にはかなりの格差があることを実感している。

## ③ 就農して良かった点

- ・食の大切さや野菜の美味しさが分かるようになったこと。
- ・作業などの日程調整が、ある程度は自分で出来ること。
- ・幅広い世代の人と関わることで、様々な価値観を学ぶこと。

## ④ 今後の目標

- ・安定的な所得確保のため、加工業者を通じて大手食品メーカーへドレッシングの原材料となるハーブ類を契約出荷すること。
- ・米の直接販売やSNSを活用した新規顧客の確保。
- ・現在は露地栽培のみだが、天候に左右されず安定した品質と収量で所得を確保するため、施設園芸にもチャレンジしたい。
- ・農業者の高齢化が進む地域で、若手が中心となって皆が助け合いながら営農が継続できるような集落営農組織をつくり、農地を守っていきたい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・就農当初、借金をためらったため思うような機械導入や施設整備ができず後悔している。就農の際は思い切って必要な初期投資を行うべき。
- ・親元就農とは違い独立自営の場合、まずは法人で雇用就農し農業経営を学んだ上での経営開始が望ましい。
- ・4Hクラブへの加入や地域住民との交流が今の自分を支えているので、人との繋がりを大切にしてほしい。

## 〈基本情報〉

所在地：いちき串木野市  
年 齢：28歳（H29.7就農）

## 〈経営概要〉

品目：露地果樹・施設果樹  
面積：大将季 35a、大橋 10a、ぶどう 10a、  
温州みかん 20a、ポンカン 5a



収穫前の巨峰

## 〈就農のきっかけ〉

高校在学中に宮崎県の東国原知事がトップセールスをしていたマンゴーを食べて、農業に興味を抱いた。また、同時期に県立農業大学校の特集番組をテレビで観てオープンキャンパスに参加したところ、校風や教師に好感を持ったので入学を決意した。

県立農業大学校の果樹科を卒業後、指宿市内で野菜・マンゴーを栽培している大規模農家に就職し、3年間修業した（最後の1年は自営開始の準備も並行）のち、平成29年7月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## 〈就農時〉

- ・県立農業大学校在学中に、研修先の農業者に師事したのがきっかけで、以後交流するようになり、その農業者からポンカンが植栽されている農地30aを借り受けて営農を開始した。
- ・借り受けた農地の近くに栽培を止めたみかん用ハウスがあったので借用している。
- ・近隣の農家からぶどうハウスを借り受け、今年からぶどう栽培を開始し共同販売している。

## 〈現在〉

- ・借用した農地のほとんどは、ぶどう、ポンカン、早生みかんが植栽されていたが老木であったため、現在植え替えを行っている。



ハウス内のぶどう

## ② これまで苦労した点

- ・最初に借り入れの契約を交わした農地を、諸事情から1年で返還せざるをえなかったこと。
- ・就農直後に初期投資に費用が掛かったことと、収入が少なかったこと。
- ・経済的に余裕がなく、今でも農閑期には他の農家の手伝いなどをしながら副収入を得ている。

## ③ 就農して良かった点

- ・就農にあたり地域の人や営農指導員などから助言をもらうなど、周りの方々に支えられている。
- ・運よく植栽されている農地を借り受けることができ、好きな農業を始めることができた。
- ・自然の恵みを感じるとともに、自分で作った果実に愛情を感じられるようになった。

## ④ 今後の目標

- ・施設栽培の面積を1haに拡大したい。
- ・まずはハウスみかんの栽培を成功させ、将来的にはマンゴー栽培にも取り組みたい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・果樹栽培は、苗の植え付けから始めると収穫ができるまで数年を必要とするので、その間は収入が得られないことから、別の収入源を確保しておくなど、計画的に営農を開始する必要がある。
- ・県立農業大学校に就学したことが、技術面においても人脈を広げる面においても、大変メリットがあった。就農後、人との出会いや繋がりを大切にしていると色々なサポートが得られ、現在も財産となっている。
- ・果樹部会や4Hクラブ等の活動に参加することで、仲間が増えて心の支えになっている。

## ＜基本情報＞

所在地：南さつま市

年齢：34歳（R2.3就農）

## ＜経営概要＞

品目：露地果樹

面積：レモン 40a、グレープフルーツ 20a、

その他（すだち、ゆず、ポンカン、たんかん）140a



## ＜就農のきっかけ＞

大学卒業後、バンドのボーカルとして全国ツアーなどの活動を行っていた。

水俣市の柑橘農家での収穫体験や栽培方法などの話を聞いて農業に興味をもった。また、同じタイミングで、結婚した妻の実家が果樹を栽培していたこともあり、この土地で就農しようと決意した。将来を考えていく中で、合計1000本の柑橘を栽培し、ここ坊津町秋目で経済的な土台を作りたいと思い、令和2年3月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## ＜就農時＞

- ・農地は農地中間管理機構を通じて借り受け、草刈用のハンマーナイフモア、動力噴霧器は師事している農家から無償で譲り受けた。

## ＜現在＞

- ・自己資金がない中で、効率化を図るため収穫した果実を一時保管する作業施設を整備したいので、青年等就農資金の申請手続きを進めている。
- ・柑橘類は風害により発生する「かいよう病」に弱いため、幼木の回りを防風木で囲む工夫をしている。
- ・収穫作業がしやすいように、ほ場の奥まで運搬車両用通路を造成している。
- ・収穫時期が重なり労働過重とならないよう多品目を植栽。就農時に定植したレモンは、今秋初収穫の予定である。
- ・無農薬・無化学肥料で栽培していることから、今後、有機JASの認定を受ける予定としている。



レモン

## ② これまで苦労した点

- ・果樹栽培を苗木の植え付けから始めたので、収入が国による新規就農者助成金のみであったことから、農閑期にはアルバイトをしていた。
- ・借り受けた農地は、長期間休耕地であったため雑木が生い茂っており、荒廃した農地を復元するためにチェーンソーを購入し、油圧ショベルを知人から借受け、約1万本の伐採と根株の撤去を行ってから新規に定植を行った。

## ③ 就農して良かった点

- ・早起きして太陽を浴び、土に触れ、海で泳ぐ。生きているということを実感できている。
- ・就農した地域は時間がゆっくりと流れていく感じが自分にあっている。都心部では味わうことのできない大自然の環境で暮らすことができていること。

## ④ 今後の目標

- ・現在2haに700本を植えており、当面は一人で栽培管理が可能な、3haに1,000本の植付けを目指している。
- ・軌道に乗れば法人化し規模拡大をしていきたい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・教科書やインターネットに書いてある言葉だけを鵜呑みにせず、実際に現場に出向き色々な意見を聞くことが大切だと思う。「それは無謀だ」「無理だよ」という厳しい言葉をもらうこともあるが、貴重な意見なので熟考して自分の中に落とし込み、一歩ずつ進んでいくことが大切。
- ・理想を追い求めるだけでなく、きちんとリスクマネジメントし、経済観念を持って足元を固めていくことが必要である。

## 〈基本情報〉

所在地：志布志市

年齢：45歳（R4.7就農）

## 〈経営概要〉

品目：施設野菜

面積：ピーマン 27a



ピーマン

## 〈就農のきっかけ〉

会社員の頃から農業への憧れがあり、会社勤務をしながら就農を考えていた。会社のルーティンワークに疲れてきた中で、志布志市農業公社の就農支援サービスを見つけ、手厚いサポートに勇気をもらい、農業の世界へ飛び込むことを決意し、令和4年7月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## 〈就農時〉

- 志布志市農業公社の研修制度を利用して就農した。

## 〈現在〉

- 研修期間の2年が終了するので、本年から農地中間管理機構を通じ27aの農地を借地。
- 新規にビニールハウスを建設し、本格的にピーマン栽培を開始。



ハウス内の様子

## ② これまで苦労した点

- 経験がないまま農業を始めたため、農業機械の操作に大変苦労した。
- 栽培技術についてもわからないことばかりだったが、公社の指導員の技術指導を受けつつ、地域の方々や同業者と、あらゆる機会を通して繋がりを作って取り組んでいる。

## ③ 就農して良かった点

- 会社勤務をしていた時より体調が良く、ライフワークも充実している。
- 地元を離れての就農ではあったが、多くの人と知り合うことができた。

## ④ 今後の目標

- これまでは研修期間だったため、経営的にはこれからだが、単収18トンを目指し栽培技術を磨いていきたい。
- 通常の栽培技術を習得できたら、次のステップとして、環境制御技術ICT等を導入した技術なども取り入れていきたい。
- コストダウンや労力軽減も視野に入れ、天敵を利用した害虫駆除を積極的に取り入れ減農薬を目指していく。



【 クリオメ 】  
害虫の天敵（タバコカスミカメ）  
を増殖・温存する植物

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- 農業は初期投資が大きく、厳しい面も多いので、強い気持ちをしっかり持って就農してもらいたい。
- 農業はマニュアル通りにやれば良いものではなく、自分で考えて仕事をやらないといけない。大変な面も多いが、自分がやったことが成果につながるのだから、やりがいがある。

## ＜基本情報＞

所在地：奄美市

年齢：44歳（R元.7就農）

## ＜経営概要＞

品目：露地果樹・施設果樹

面積：たんかん 1ha、  
パッションフルーツ 8a

パッションフルーツ

## ＜就農のきっかけ＞

東京都出身。平成30年から奄美市の仲卸業者に勤務していたが、農業はゼロからモノを作るやりがいのある仕事であり、奄美市で収入を上げるためには農業だと考え会社を退職した。その後、パッションフルーツ栽培について奄美市農業研究センターで1年間学び、たんかん栽培は農家に週1回通い研修を受け、令和元年7月に就農した。

## ① 就農から現在までの状況

## ＜就農時＞

- ・たんかんは、知人の紹介で成木の畑が見つかったことから栽培を始めた。資金は政策金融公庫から融資を受けた。
- ・パッションフルーツは、栽培が奄美の気候に合っていることや、奄美市が栽培に力を入れていること、また、奄美の魅力を伝えるにはパッションフルーツが適していると思い栽培を始めた。ハウスは奄美市から借り受けている。
- ・草刈り機、ハンマーナイフモアー、動力噴霧器は購入。耕うんは奄美市農業研究センターに委託している。



収穫間近のパッションフルーツ

## ＜現在＞

- ・土づくりを意識し、ぼかし肥料や有機物を使っている。様々な菌についても勉強しながら、現在実証中である。
- ・今年のだんかんの収穫量は2トン弱。パッションフルーツは1トン強の収穫量を見込んでいる。

## ② これまで苦労した点

- ・一人で作業を行っていることから初めは流れが分からず、やることが後手後手になり苦しかった。
- ・離島のため、輸送手段であるフェリーが悪天候により欠航し、ネット販売等の注文への対応が厳しくなったり、送料が掛かることがネックである。

## ③ 就農して良かった点

- ・会社勤めのころと違い、自分で時間配分ができ、時間を自由に使うことができる。
- ・休みも自分で決められることができ、子供の行事等に参加することができるようになったこと。
- ・就農してすぐコロナ禍になり、子供たちの学校が休校となった。その際、畑に連れて行くことで親子の会話が増えた。

## ④ 今後の目標

- ・一人で作業するため面積拡大は目指さず、今の土地に100本程度のたんかんを追加で植栽したい。面積を増やすよりも糖度を上げるなど、品質、美味しさを高めていきたい。
- ・南の島「奄美大島」で育ったたんかん、パッションフルーツの魅力を伝え、知名度をUPしていきたい。

## ⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・人頼みではいけない。一人でやる覚悟が必要だと思う。それができて初めて良い仕事ができる。
- ・土地を見つけることも容易ではない。情報を得るためには周りの人に「農業をしたい」と言い続けることが必要である。
- ・研修が全てではなく、実際自分でやってみないと身に付かない。